

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	加東市	大学名	
派遣日	令和5年6月28日(水曜日) 13:30~16:00 【日程】13:30 開会 13:35~ 出席者紹介 13:40~ 講義「教育委員会における受入れ体制の整備」 —すべての子どもたちの学びを保障する— 15:00~ 指導助言・質疑応答 16:00 閉会				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	兵庫県加東市教育委員会(加東市役所4階) 〒673-1493 兵庫県加東市社50番地				
アドバイザー氏名	京都市教育委員会指導部学校指導課 副主任指導主事 大菅 佐妃子 氏				
相談者	加東市教育委員会事務局こども未来部学校教育課 加東市役所市民協働部人権協働課				
相談内容	<p>近年、本市では外国人児童生徒の転入が増加し、日本語がまったく理解できない事例が多い。県費や市費による多文化共生サポーターや多言語相談員の派遣により、母語による児童生徒や保護者の支援を、短・中期的に実施しているが、今後も外国人児童生徒数が増加することを視野に入れ、持続可能な支援体制構築のための手立てについて、指導・助言いただきたい。</p> <p>また、外国人児童生徒等の受入れや指導体制の構築についても、あわせて指導・助言いただきたい。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>1 日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導が必要な児童生徒数の全国的な状況・外国人児童生徒等の多様な背景 来日する理由や時期、将来設計の多様性・外国人児童生徒等が直面する課題 学校への適応：毎日「登校する」ことにつながる手立て 学習言語の習得につながるよう安心して学べる場所の確保 異言語・異文化に対するクラスの理解促進 登校時間の段階的な設定 保護者との綿密なコミュニケーションによる保護者の安定 進路指導の難しさを克服するための情報収集 <p>2 外国人児童生徒等教育の位置づけについて</p> <ul style="list-style-type: none">・「特別的教育課程」制度導入による日本語指導・改正入管法により家族の帯同が可能となったことによる多様性・各市町の「教育方針」等における外国人児童生徒等教育の明確な位置づけ				

	<p>3 外国人児童生徒等への支援・指導について</p> <ul style="list-style-type: none">・「特別の教育課程」に基づいた取り出しによる日本語指導が、大変有効である。一斉授業では、わからない中ただ座っているだけになりがちだが、安心して学べる場所の確保につながる。・国際理解教育・人権教育を基盤とした在籍学級における学校生活 児童生徒の母語や母国について学び周囲の理解につながることで、自信や安心につながり、「私はこれでいいんだ」というアイデンティティの確立につながる。 国際交流協会や保護者、あるいは児童生徒自身がゲストティーチャーになり得る。・母語で支援ができる人材の確保 日本語の獲得を考慮し、母語に頼り過ぎない 児童生徒へ：適応促進への支援、母語・母文化の保持や促進 保護者へ：懇談会や説明会等での通訳、重要な文書の翻訳 在籍学級で：学校行事の事前指導や当日の支援、授業中の指示や活動内容の通訳 地域で：PTA 等での通訳、地域日本語教室等での通訳 多文化共生教育の取組：学年や学級、学校での母文化等の紹介、教員研修での講師、PTA や地域での啓発活動の講師・日本語指導ができる人材の確保 継続して同じ人が指導できる体制 教員の中の隠れた人材、地域の人材・「個別の指導計画」の作成・京都市教育委員会の取組紹介 <p>4 地域と連携した学校への支援について</p> <ul style="list-style-type: none">・支援員の確保、文書の翻訳・どのような関係機関から、どのような支援が可能か <p>5 教育環境・教材などの整備について</p> <ul style="list-style-type: none">・指導場所、教材教具の整備 机や椅子はあるか、黒板はあるか、教科書はあるか、パソコンはあるか かるたや絵カード等の教材はあるか 教材教具を購入する予算の措置はあるか・翻訳したデータの保存と共有
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>指導・助言を受け、外国人児童生徒等の支援においては、関係機関が連携し、それぞれの得意分野を活かした多様な支援につなげるため、まずは情報共有する場の必要性を改めて感じた。そこで、今年度、国際交流協会・学校・市長部局・教育委員会事務局を構成員とする「加東市外国人児童生徒等支援連絡協議会」を設置し、関係機関の連携体制を整えることとした。</p> <p>ネットワークの構築により、日本語指導や母語による支援ができる人材の確保や外国人児童生徒等が安心して学校生活を送ることができる環境整備にもつなげたい。</p>

(様式3)

	<p>また、今後、日本に基盤を置いて生活する児童生徒にとって、個々の日本語能力に応じた個別の指導指画による指導が、大変有効であることをご示唆いただいた。今後の実践に向け、研究を進めたい。</p> <p>あわせて、現在、実施している市費による「多文化共生サポーター」「多言語相談員」の派遣や「こども日本語支援員」による、遊びや宿題を通じた日本語支援や授業支援について今後も継続し、地道な関わりを続け、継続的な支援体制を整えたい。</p>
--	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。